コスモ石油株式会社

グリーンレポート2004

Green Report 2004

ずっと地球で暮らそう。

ずっと地球で暮らそう。

2つのスローガンについて

石油が人類にさまざまな恩恵をもたらしてきた一方で、その大量消費が地球環境に大きな負担を強いてきた事実。
この事実を忘れず、地球と人と社会との調和と共生を重んじながら、
新しい価値を提供できるエネルギー会社でありたい――。
「ずっと地球で暮らそう。」　「ココロも満タンに」の2つのスローガンには、
コスモ石油グループのそんな思いが込められています。

ココロも満タンに

コスモ石油グループ経営理念

**私たちは、地球と人間と社会の調和と共生を図り、
無限に広がる未来に向けての持続的発展を目指します。**

地球市民として

地球のために今できること、今すべきことを。

コスモ石油グループは、これから先もずっと地球のすべての人々が、
豊かに暮らしつづけていけるよう、環境との調和と共生を追求しています。
環境負荷の低減に力をつくすとともに、
地球と人に優しいエネルギー供給に向けた取り組みを進めています。
また、地球規模での環境修復・保全活動や、
未来を担う子どもたちに環境の大切さを伝える活動をしています。

ゼロフレアプロジェクト

地球環境保全プロジェクト

水素ステーション

企業として、また企業市民として

お客様が心豊かに毎日を送るためのお手伝いを。

安心と安全、そしてココロの充足がコスモ石油グループの企業活動の基本です。
社会のニーズを聞きコミュニケーションをしながら、
エネルギー企業として価値あるサービス、より良い製品を提供しつづけたい。
そのためには、誠実な経営と安定した収益を維持することが大切です。
「お客様に選ばれるエネルギー企業」であるために、地道な取り組みをつづけていきます。

Auto B-cleの展開

安全管理の徹底

クリーンキャンペーン

Green Report 2004

CONTENTS

コスモ石油グループ経営理念 02
ずっと地球で暮らそう。 03
広がる、行動の輪 05
環境コミュニケーション 06
国境を越えた、交流 07
未来へ、エネルギー進化論 09
とにかく、安全。それが、原点 11
環境中期計画 12
石油のライフサイクル全般にわたって環境負荷の削減に努めます 13
地球温暖化防止について 15
社会とともに持続的に発展していくために 17
トップメッセージ 18

「グリーンレポートについて」

このレポートは、コスモ石油グループのお客様や、株主・投資家の皆様、さらに多くの方々に私たちの環境保全に対する考え方や活動内容をご理解いただくために、2002年度より発行しています。

※より詳しい情報が必要な方には、「コスモ石油グループ　サステナビリティ　レポート 2004」をお送りします。
コスモ石油（株）経営企画部 CSR・環境推進室（03-3798-3222）までお問合わせください。

ずっと地球で暮らそう。

地球市民の一員として「何ができるのか」「何をすべきなのか」を考え、企業の枠を超えて、お客様や地域社会など、多くの人とともに環境保全活動を進めています。

お客様・社会とともに

コスモ・ザ・カード「エコ」会員と「ずっと地球で暮らそう。」プロジェクトを進めています。

コスモ・ザ・カード「エコ」

「地球のために何かしたい」というお客様の気持ちと、コスモ石油の気持ちが一つになってコスモ・ザ・カード「エコ」は生まれました。（裏表紙にご案内があります。）
「ずっと地球で暮らそう。」を合言葉に、地球温暖化防止をメインテーマとした地球規模での環境保全や、次世代を担う子どもたちへの環境教育支援などを行っています。会員数は発行以来2年間で約7万5千人になりました。

プロジェクトに簡単に参加できる「クリック募金」

コスモ石油のホームページで、支援したい環境保全プロジェクトをクリックすると、クリックされた方に代わってコスモ石油が1円を寄付します。2003年2月14日から開始し、2004年3月末までに寄付総額は、1,378,230円となっています。

「ずっと地球で暮らそう。」プロジェクト

稲作普及のために欠かせない精米器を寄贈

熱帯雨林保全プロジェクト

【パプアニューギニア/ソロモン諸島】

二酸化炭素を吸収する熱帯雨林の破壊が地球温暖化を加速させるものとして、大きな問題となっています。パプアニューギニアやソロモン諸島でも、急激な人口増加などの影響で、森の回復力を上回るペースで耕作地が広がっています。私たちは何度も現地に足を運び、現地の方々との意見交換や調査をしながら、熱帯雨林保全の第一歩として、森林への負担をかけない定地での循環型有機農業の普及を支援しています。

有機肥料を作るための製造小屋

南太平洋諸国支援プロジェクト

【キリバス共和国】

温暖化が原因といわれる海面上昇で、井戸水の海水化や海岸線の浸食などの被害に直面する、南太平洋の島嶼国を支援しています。

シルクロード緑化プロジェクト

【中国】

農作物の不作による食糧不足や貧困などの問題を生む砂漠化の進行の防止をめざして、地域住民や地元政府とともに、シルクロードへの植林を推進しています。

循環型農業支援プロジェクト

【フィリピン】

今まで捨てられていたキャッサバの葉を再利用した養蚕を核にした循環型農業による地域の持続的発展を支援しています。

学校の環境教育支援プロジェクト

【日本国内】

保水力に優れ、土砂崩れを防ぐ効果もある棚田の保全などを、学校の「総合的な学習の時間」に環境教育プログラムとして提供し、環境教育を支援しています。

環境学校支援プロジェクト

【日本国内】

野口健さん率いるNPOとともに、富士山や小笠原諸島などで「環境学校」を開催し、環境に対して自ら行動できる子どもたちの育成を支援しています。

広がる、行動の輪。

「業績に左右されない長期継続」「社員自らの参加」「当社オリジナリティ」の3テーマを基本方針として、広く世界の人たちに環境保全の大切さを呼びかけ、それに応えてくれた人たちとともに行動しています。

コスモ アースコンシャス アクト

COSMO EARTH CONSCIOUS ACT

「コスモ アースコンシャス」とは、「地球を愛し、感じるこころ」の意味を込めた造語です。
コスモ石油とTOKYO FMをはじめとするJFN（全国FM協議会加盟38局）がパートナーシップを組んで、地球環境の保護と保全を全世界の人々に呼びかけ、環境に対して自ら行動していこうというものです。

全国FM局と一緒に、環境保全を全世界に呼びかけていく活動をしています。

クリーン・キャンペーン

1年を通じて、自然と親しみながら環境活動を楽しく行っています。清掃活動以外にも、ライブ、スポーツイベントなどで、子どもから大人までが参加できるように工夫しています。

2001～2003年度の実績
実績:会場合計/**124**ヵ所　参加者合計/**55,298**名　ごみの総回収量/**841,894**リットル

アースデー・コンサート

1990年から、毎年4月22日の「アースデー」に開催しています。「アースコンシャス～地球を愛し、感じるこころ～」のコンセプトに共感した、国内外のアーティストがコラボレーションし、地球への愛を歌い上げます。

2003年度の出演者/忌野清志郎、佐野元春、及川光博、夏川りみ

野口健講演会&展示会

エベレストや富士山のごみに象徴される環境問題を取り上げ、皆様と一緒に考える講演会を、2002年度から全国で実施しています。野口さんがエベレスト清掃登山から持ち帰ったごみなども展示しています。

WEB ▶ http://www.cosmo-oil.co.jp/earth/index.html

ラジオ番組を通じて環境保全メッセージを発信

2003年度は、FMレギュラー番組として、地球上に存在する美しい自然を一つの物語のようにして伝える「コスモ　アースコンシャス アクト～ずっと地球で暮らそう。」をオンエアーしました。出演者はミュージシャンの一十三十一（ひとみとい）さんです。

「ずっと地球で暮らそう。」/JFN全国38局ネット　毎週日曜7:40～7:55他
※2004年度は毎週土曜10:55～11:00他に変更しています。

ずっと地球で
暮らそう。

環境コミュニケーション

環境広告をはじめ、出版物※、イベントなど
さまざまなコミュニケーション・ツールやメディアを活用して、
より多くの人に情報を開示するとともに、
皆様の声に真摯に耳を傾け、
私たちの進むべき道しるべとしています。

※裏表紙を参照ください。

より多くの人に環境保全に関心を持っていただきたい
そんな思いを込めた環境広告に大きな反響をいただきました

「炎は消えた」篇　「森はなくせない」篇　「明日の空」篇

第71回　毎日広告デザイン賞
「準部門賞」

1931年に創設された、長い歴史を誇る賞です。時代を象徴するほどの影響力やメッセージ力のある作品が対象になります。2003年度、コスモ石油の「環境広告」シリーズの「森はなくせない」篇が準部門賞を受賞しました。

第17回　東京新聞 読者が選ぶ東京新聞カラー広告大賞
「最優秀賞」

専門家やクリエイターを一切交えず、読者自らがカラー広告を選考するもので、読者に支持された広告が対象になります。「明日の空」篇が最優秀賞を受賞し、2年連続でカラー広告部門の最優秀賞に輝きました。

第12回　中日新聞広告賞
「優秀賞」

読者による一次審査と専門家による二次審査によって選ばれ、「暮らしに役立つ情報がえられる」「話題性・社会性がある」といった審査基準のほかに、表現上の完成度も考慮されます。「炎は消えた」篇は優秀賞を受賞しました。

コーポレートメッセージ調査 企業名想起率ランキング
「ココロも満タンに」が第3位に。

日経BPコンサルティングがウェブサイト上でアンケートを実施。250社のコーポレート・メッセージを対象に、企業名を想起できるかどうかやイメージなどを聞いた。有効回答数は1万8933件（男性60%、女性39%）、平均年齢は40歳。調査期間は2004年6月24日～7月23日。

国境を超えた、交流。

事業活動において深いかかわりのある中東や東南アジア諸国の持続的発展の一助となることを願い、また、友好関係を深めるために、技術協力や人材交流、文化交流を行っています。

海外協力活動

政府機関や海外の企業と連携して、さまざまな開発調査プロジェクトや省エネルギーモデル事業などを推進するとともに、技術やノウハウの移転のため、人材交流を継続的に行っています。また、国境を超えた教育について考える国際カンファレンス「アブダビ（UAE）：Philosophy“education2003”」にも協力しました。

イエメンでの研修会の様子

研究所での実習風景

堺製油所での研修

千葉製油所での研修風景

- ●UAE石油精製設備での環境保全技術調査と、資源・環境保全技術検討の実施
- ●イラン石油精製設備での環境保全技術調査の実施
- ●インドネシア国営石油公社での省エネルギーモデル事業の実施
- ●オマーン国営石油での製油所調査と、排水処理改善事業の実施

■ 産油国アブダビでの活動

コスモ石油の子会社であるアブダビ石油や、日本アラブ首長国連邦協会を通じて、1960年代から今日まで長年にわたって事業活動を超えた、人材交流、技術提供、文化交流などを幅広く行っています。

●アブダビ石油における安全・安定操業

アブダビで石油開発事業を行っているアブダビ石油では、安全で健康な職場づくりに努めています。アブダビ石油の安全・環境に対する取り組みは、アブダビ政府からも高く評価され、さまざまな賞を受賞しています。

●マングローブの植林をはじめとする地域の緑化推進

アブダビ石油は、アブダビ市街にある現地事務所の敷地内に植樹したり、ムバラス島にマングローブを植林したりするなど、地域の緑化を積極的に進めています。2003年度からは、現地事務所の敷地内に桜の苗木を植林する新しい試みも始めています。

ムバラス島のマングローブ林

アブダビ現地事務所

裏庭の塀沿いに桜を植樹

技術・人材交流を促進することで、環境負荷の低減にも努めています。

■ ゼロフレアプロジェクトの効果

●年間20万トンの二酸化炭素を削減

原油を生産する時に一緒に生産される有害ガスを大気中で燃やすのではなく、もとあった地中に再び戻そうというのが、ゼロフレアプロジェクトです。コスモ石油の子会社であるアブダビ石油とその関連会社が運営する3つの油田では、油井の塔から燃えさかる炎（フレア）が消え、大気汚染の防止に貢献しています。
このプロジェクトによって、年間20万トンの二酸化炭素に相当する温室効果ガスを削減しています。これは、東京ドーム約12,000個分の森林が吸収する二酸化炭素の量に匹敵します。

ゼロフレアプロジェクト実施後

ゼロフレアの第一段階であるサワーガス圧入プロジェクトは、アブダビ国営石油会社（ADNOC）から高い評価を受け、2000年度の「ADNOC HSE AWARD」では、参加申請62件中最高位の「最高賞」を受賞しました。

ゼロフレアプロジェクトは、アブダビ政府からも高い評価を受け、2000年度は安全操業や環境保全に対して授与される最高賞を受賞しています。

未来へ、エネルギー進化論

NewEnergy…

1960年代、1970年代を通して現在に至るまで、大気汚染の緩和は社会的要請でありつづけています。私たち石油業界はこれまで、一貫してより環境負荷の低いエネルギーへと、石油を進化させてきました。これからも、さらなる品質改善に努め、未来に向けて、よりクリーンなエネルギーを目指してゆきたいと思います。

□水素エネルギーへの挑戦

コスモ石油は次世代のクリーンエネルギーである水素の製造・供給・利用技術の研究・開発・事業化を進めています。2003年3月から、横浜「JHFC横浜・大黒水素ステーション」の運営を開始し、実用化のためのデータを集めています。そのほか、燃料電池車の水素充填技術を、日産自動車（株）の「X-Trail FCV」で共同研究しています。
また、家庭用燃料電池の実用化に向けた取り組みも進めています。

燃料電池車

水素ステーション

□脱・大気汚染に向けた挑戦

1960年代、大都市圏では硫黄酸化物（SOx）による大気汚染が問題化し、1970年代には急激なモータリゼーションの発展にともなう大気汚染が問題になりました。その折々に、石油業界では、ガソリンや軽油の環境負荷低減に全力で取り組んで来ました。現在では、大気汚染への対応と、自動車の燃費改善に向けて、さらなる石油製品の低硫黄化に取り組んでいます。燃費改善は温暖化対策にも有効です。2005年から、硫黄分を10ppm以下に抑えたサルファーフリーガソリンと軽油を供給できるよう、現在準備中です。

□人と地球にやさしいクリーンエネルギーへの挑戦

クリーンな再生可能エネルギーは、今でこそまだ安定性やコスト面、汎用性などの課題がありますが、社会の持続的発展には不可欠です。私たちコスモ石油グループでは、再生可能エネルギーの実用化に向けて、研究・技術開発や事業化に取り組んでいます。そのひとつが風力発電です。2004年8月に山形県酒田市において、風力発電設備の建設に着工しました。また、2004年12月から風力発電による電力の卸供給を開始する予定です。

成長する風力発電

2003年度末の風力発電による総発電能力は世界で4,000万kW。
2006年度末には、6,000万kWを超え、欧州では総電力の10%を風力が占めると見られています。

総合エネルギー事業の展開

分散型電源事業

分散型電源システムは、病院・工場等のエネルギーを利用するその場所で発電を行い、安価な電力を供給します。その時発生する排熱を有効利用することによって、エネルギー利用効率の向上を図り、CO_2排出量を削減します。当社では、分散型電源システム等の「エネルギーサービスビジネス」を実施しています。2003年度末のシステム成約実績はおよそ2万kWとなっています。

電力卸供給（IPP）事業

三重県四日市市の霞地区に20万kWの発電所（四日市霞発電所）を建設し、2003年7月から営業運転を開始しました。今後15年間にわたり中部電力に電力を安定供給します。また、四日市霞発電所は、所内に緑地や保全池を造成した、自然との調和を考えた施設になっています。

天然ガス事業

中部電力（株）などが設立した液化天然ガス（LNG）販売会社「（株）エル・エヌ・ジー中部」に参画し、2001年末から都市ガス会社にLNG供給を開始しました。2003年度には、国内初の産業分野へのLNG供給を開始しました。

とにかく、安全。それが、原点。

**コスモ石油にとって、安全管理の徹底は企業活動の原点です。
安全に関する行動指針を定めて、従業員のみならず、
地域住民の安全の確保を図るとともに、地域社会との共生に努めています。**

※安全に関する行動指針：「安全、安定操業の維持発展を最重要課題のひとつと位置付け、可燃物、高圧ガスを取り扱う事業所では、従業員のみならず、地域住民の安全の確保を図るとともに、地域社会との共生に努める」（コスモ石油グループ企業倫理規程より）

安全管理システムの導入

2003年度は、継続的な安全レベルの向上を目的として、従来の安全管理活動と保安管理強化活動の成果を体系化し、「PDCA型の製油所安全管理システム（SMS）」を構築しました。
2004年度からは、構築したSMSに、装置の安全性評価システムを融合させて、本格的に運用を開始し、自主保安の一層の強化に努めます。

製油所などの安全操業の仕組み

所長をトップとする安全衛生委員会を組織して、さまざまな安全活動の計画策定や実績報告を行い、安全の確保に努めています。

操業事故ゼロを実現

2003年度の製油所の操業事故は0件、従業員の労働災害数は休業災害0件、不休業災害1件でした。
千葉製油所の無災害記録は延べ1,570万時間（2003年12月末現在）で、石油業界No.1を維持しています。

未然防止と発生時の早期対応両面から安全管理を徹底しています

安全管理は、災害を未然に防ぐ「未然防止」と、万一災害が発生したときに被害を最小限に食い止める「発生時の対応」の二つの側面から取り組んでいく必要があります。当社では、製油所、油槽所、物流、SS（サービスステーション）の各段階で、この二つの側面について、ハード、ソフト両面の対策を実施して、安全管理の徹底に努めています。

未然防止・早期発見

ハード対策

製油所・油槽所
- 設備設計時の安全配慮
- 安全機器の設置
- 異常監視機器の設置

SS
- 設備設計時の安全性配慮
- 静電防除シートの設置
- オーバーフロー防止設備設置

ソフト対策

製油所・油槽所
- 運転管理・工事管理・設備管理の徹底
- 危険予知運動（KYT、ヒヤリ・ハット）
- 事故事例の水平展開
- 教育シミュレーターを活用した運転技術教育
- 小集団活動など

SS
- 顧客への静電防止啓発ポスター標示
- 誘導レーンの明示
- 禁煙標示
- セルフSSでの従業員による監視

発生時の対応

ハード対策

製油所・油槽所
- 防消火設備、資機材の設置
- 保安用保護具の設置
- 大型化学消防車などの設置
- 桟橋にオイルフェンス設置

総合防災訓練の様子

SS
- 消火器、消火設備の設置
- 防火塀設置

ソフト対策

製油所・油槽所
- 災害対策組織の整備、確立
- 防消火訓練
- 相互援助体制の整備
- マニュアルの整備

自衛消防隊（消防車）

SS
- 消火訓練の実施
- 防災教育の実施
- SS危機・安全管理マニュアルの整備

SS施設安全点検記録帳

環境中期計画

「ブーア（BlueEarth）21」の現状と目標

「ブーア21」では、「環境中期計画スローガン」を掲げ、9つのテーマを設定し、部門ごとに目標達成に向けて取り組みを進めています。

環境中期計画スローガン
環境で選ばれるコスモ石油

－真の環境先進企業を目指す－
企業市民として社会的責任を果たす　環境保全と経済性の両立

2003年度の目標と成果

2003年度の重点テーマとして、全社員で取り組む草の根活動と、リスクマネジメントを強化するための「ゼロエミッション」「グリーン購入」「土壌環境対応」を設定。体制や実行計画など、継続的に取り組んでいくための土台作りに力を入れました。

テーマ	取り組み	2003年度の主な取り組みの進捗	関連頁
①温暖化対応 CO_2削減と新エネルギーへの取り組み	省エネルギー	製油所の省エネルギー、エネルギー消費原単位を10.7%削減（1990年度比）	13,16
	新エネルギー	風力発電の事業化着手／SSソーラーパネル4件設置	10
②汚染物質排出削減 法規制の遵守と産業廃棄物の削減	大気・水質	製油所の大気汚染・水質汚濁物質の排出レベルを法規制値以下に維持継続	—
	産業廃棄物	製油所の最終処分量を87.4%削減（1990年度比）	—
③土壌環境対応 実態把握・対応と未然防止の推進	SS	未然防止策として、EM管理ポイント（SS管理ツール）、啓発策推進、自主タンク検査等の実施	14
	他事業所	11ヵ所で土壌調査実施、全事業所で設備の維持管理と日常点検の徹底	—
④省資源 リデュース・リユース・リサイクルの推進による一般廃棄物の削減等	紙	電算帳票類を33.3%削減(2002年度比)	14
	日常品	全事業所で分別回収・再資源化の調査実施、全社推進組織「オフィスクリーンチーム」整備	—
⑤製品の環境負荷低減 環境負荷の低い石油製品の供給	軽油対応	2003年4月より硫黄分50ppm以下の軽油の全国供給実施	10
	ガソリン対応	2005年からのサルファーフリーガソリン供給に向けた準備実施	10
⑥グリーン購入 グリーン購入の拡大	資機材・工事・事務用品	アンケート調査を実施し、グリーン購入基準策定	—
	グリーンサプライヤーからの購入		—
⑦研究開発 環境技術開発と新エネルギー分野での技術開発	石油製品	サルファーフリー軽油製造用高性能触媒の開発継続	—
	環境技術	開発した排水処理装置余剰汚泥減容化システムの実用運転での技術サポート実施	—
		開発した土壌中油分評価技術の製油所、SSでの利用	—
	新エネルギー	天然ガスからの液体燃料製造装置において開発触媒の実証化試験実施	—
⑧環境貢献プロジェクト 温暖化防止を中心とするプロジェクトの継続的な展開	環境保全技術協力	環境関連技術の海外移転実施（ゼロフレア、省エネなど）	7,8
	「エコ」カードプロジェクト	地球環境温暖化防止を主題に①開発途上国支援、②環境教育に資するプロジェクト継続実施	3,4
	社会貢献	「コスモ子ども地球塾」、「コスモ アースコンシャス アクト」など実施	5
⑨環境経営推進施策 環境マネジメントの継続的な推進と様々なステークホルダーへのコミュニケーション	環境マネジメント	階層別研修で環境教育を実施	—
	コミュニケーション	環境出版物、広告、WEBによる環境情報の発信継続	6,裏表紙

2004年度の計画

2003年度に引き続き、「ゼロエミッション」「グリーン購入」「土壌環境対応」を重点テーマに設定。環境中期計画（第一期）の最終年度となる2004年度は、全テーマの目標達成をめざします。

ゼロエミッション
さらなる産業廃棄物最終処分量の削減
最終処分量／発生量=1.5%以下

グリーン購入
資機材・工事等のグリーン購入の実施と対象範囲の拡大
グリーンサプライヤーからの購入実施と対象範囲の拡大

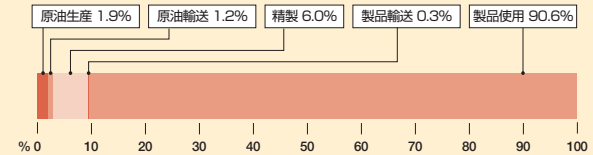
土壌環境対応
未然防止の推進
SS施設の自主点検と対応の実施

石油のライフサイクル全般にわたって環境負荷削減に努めます。

環境対策の流れ

「つくる」、「はこぶ」、「つかう」のすべてのプロセスごとの環境負荷を把握。どうしたら効果的に減らすことができるかを考え、できることから実行しています。

石油のライフサイクルにおけるCO_2の比率

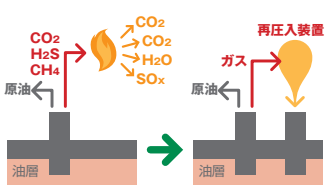


環境対策

ゼロフレア※プロジェクトの効果

コスモ石油の子会社であるアブダビ石油とその関連会社が運営している3つの油田では、これまで大気中で燃焼させていた随伴ガスを地下の油層に全量再圧入することにより、SOxやCO_2を排出しない「ゼロフレア化」を2001年5月に達成しました。炎が消え、年間約20万トンのCO_2削減につながっています。これは、東京ドーム約12,000個分の森林が吸収するCO_2量に匹敵します。

※フレアとは随伴ガスを燃やした炎のこと

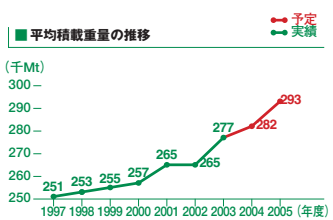


環境対策

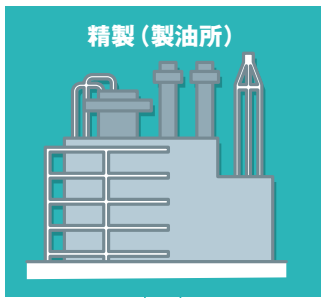
タンカーの大型化

原油は、産油国から約20日の航海を経て日本に運ばれてきます。その輸送量は、30万トン級タンカー1隻で日本全国の消費量の1／2日分に相当します。輸送の効率化を図るために、20万トン級タンカーから30万トン級タンカーへの大型化を進めています。

■平均積載重量の推移



Mt:メトリックトン



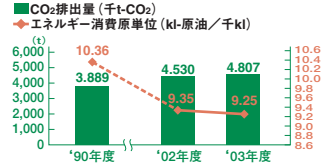
環境対策

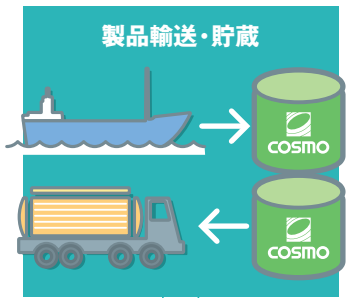
製油所の環境対応

製油所では、高効率機器の導入、運転管理の改善など、エネルギーの有効利用に努めています。コージェネレーション装置、高効率の熱交換器の設置など省エネ技術の導入や、日常の装置運転において、蒸気や燃料使用量の管理強化などを実施しています。そうした活動の結果、2003年度のエネルギー消費原単位は、目標（1990年度比8.3%削減）を上回る10.7%（9.25kl-原油/千kl）まで削減できました。

また、製油所では、大気汚染・水質汚濁防止、産業廃棄物の削減、化学物質の管理など、様々な環境保全の取り組みを実施しています。

■CO_2排出量とエネルギー消費原単位の推移



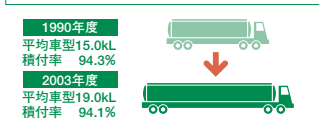


環境対策

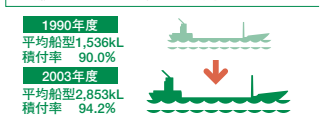
物流の効率化と省エネルギー

石油製品は、製油所から油槽所やSS（サービスステーション）などに向けて、タンクローリーや内航タンカーなどで輸送します。コスモ石油では、タンクローリーや内航タンカーの大型化、油槽所の統廃合、他社との共同化など、早くから物流システムの効率化に努め、省エネルギーに取り組んできました。

■タンクローリーの平均車型と積付率



■内航タンカーの平均船型と積付率



環境対策

SS環境リスクマネジメント

環境管理ポイントの導入

2003年4月から「漏洩対策管理」や「設備点検」、「産業廃棄物対策管理」などに関する「環境管理ポイント（EMポイント）」を導入し、SSの環境リスクマネジメントを行っています。2003年度には、特約店のSSを含む約5,000ヵ所のSSを対象として、EMポイントによる評価を行いました。

SS環境管理ポイント（EMポイント）チェックシート

啓発活動の実施

環境管理の意識向上のため、啓発ビデオや、油漏洩の早期発見と土壌汚染の未然防止を目的として、「SS土壌環境セーフティーブック」を利用しています。

SS施設安全点検記録帳

社有の地下タンク検査の実施

2002年度より、自主的に地下タンクの検査を開始しました。現在までに、社有の大部分のSS（約900ヵ所）について検査を行い、結果に基づき、必要な対応を行っています。

環境対策

資源の有効利用

ごみ分別の徹底

本社のオフィスから出る紙ごみについては、各フロアに「リサイクルボックス」を設置し、分別の徹底を図っています。

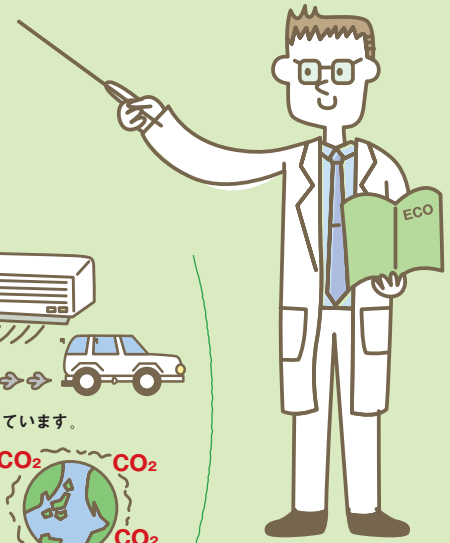
本社のリサイクルボックス

紙ごみの再生利用

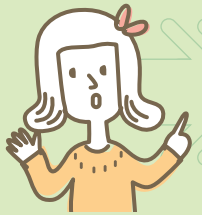
本社の紙ごみは、「上質紙」「封筒類」「新聞」「雑誌」に分類し、集積所に集めています。集まった古紙は、リサイクル業者により回収され、再生紙の原料となっています。当社の2003年版環境報告書やカレンダーは、本社から出た古紙を含む再生紙を利用して作成しました。

リサイクル業者による回収

地球温暖化って何？

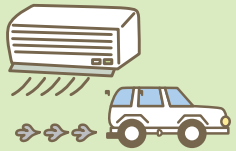


どうして温暖化が起きるの？



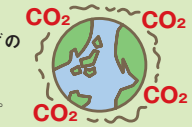
それは…

暮らしが便利で快適になる一方で、
使うエネルギーの量も増えています。
エネルギーを使う時に排出される
二酸化炭素や、そのほかの
温室効果ガス（フロンなど）の量も年々増えています。



そして、

温室効果ガスは、宇宙に放出されるはずの
地上の熱をため込み、
地球全体を温室のようにしてしまいます。



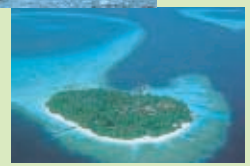
温暖化が進むとどうなるの？

たとえば、

地球が暖かくなってくると、
南極やアルプスの氷が溶け出します。

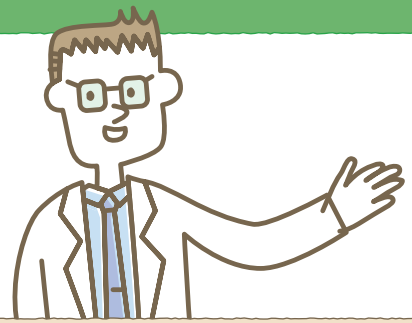
それから…

海面の上昇による水没の危機、
植生の変化や農業への打撃、
熱帯の病原菌の北上など……。
温暖化による影響はすでに
あちこちで見られるようになっています。



それを防ぐにはどうしたらいいの？

温室効果ガスの中で一番多いのは二酸化炭素です。
その二酸化炭素の排出をおさえるために
エネルギーを節約したり、
二酸化炭素を吸収してくれる森林を
守ることが大事なんだね。



それでは、コスモ石油グループがどのような活動を行っているかを見てみましょう。

地球温暖化防止へ、私たちのアプローチ

私たちコスモ石油は、原油の開発からSS（サービスステーション）での販売にいたるすべての事業過程で、地球温暖化防止のための活動に取り組んでいます。同時に、石油事業の枠を超え、石油を使うお客様とともに、温暖化防止のための貢献活動を実施しています。また、石油を大切に使っていただきたいとの思いから、石油の「ノーブルユース（賢い使用法）」に向けた啓発活動も展開しています。

炎は消えた。CO_2も消えた（ゼロフレアプロジェクト）

塔の上で激しく燃える炎とともに、大気中に排出されるCO2。これをなくすために、ガスを地下の油層に返すシステムを私たちは開発しました。炎が消え年間約20万トンのCO2削減につながっています。

オーストラリアでの植林支援

オーストラリア南西部の5,100ha（山手線の内側の広さ）の荒野に、2001年、コスモ石油はCO2の排出権オプション契約を絡めたユーカリの植林支援を始めました。2003年、この林が1年間に吸収した47,489トンのCO2を排出権として取得しました。

お客様とともに（環境貢献活動・啓発活動）

地球規模での温暖化防止活動を、コスモ・ザ・カード「エコ」会員のお客様とともに進めています。また、消費者が温暖化について意識するきっかけになればと、CMなどの広告媒体やイベントを通して、意識啓発の取り組みも行っています。

※3～6ページをご参照ください。

製油所でも、オフィスでも（省エネルギー活動）

製油所ではコージェネレーションシステムをはじめとするエネルギーの有効活用、運転管理の強化などで1990年度比で10.7%のエネルギー消費原単位を削減しました。本社オフィスでは消灯の徹底などで2002年度比約3%の省エネルギーを実現しました。

信頼

社会とともに持続的に発展していくために

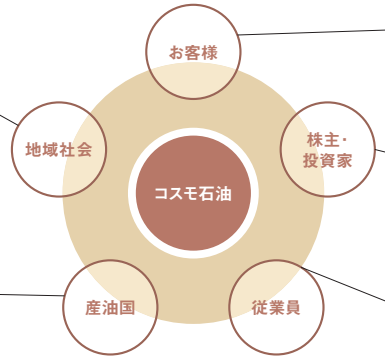
コスモ石油を支えるステークホルダーの皆様から信頼され、
存続を期待される企業でありつづけられるよう、
事業活動を通じて価値を提供するとともに、
透明性の高い、健全な企業行動の維持と発展に努めています。

1 企業倫理の推進を図り、より社会から信頼される企業を目指します。

2 ステークホルダーとのかかわりの中で、未来価値の創造に努めます。

地域社会を構成する一員として、例えば製油所ではコンビナート近隣の企業や公的機関と連携し、地域防災のための共同体制を構築しています。また、周辺の清掃や地域イベントへの協力など、地域の一員としての草の根活動を推進しています。

深いつながりのあるビジネスパートナーとして、原油売買のみならず、産油国においても当グループの人材や技術を活用し、環境保全や安全管理の技術普及などに取り組んでいます。人材交流や文化交流活動も行っています。



あらゆるお客様に愛されるコスモネットワークを目指し、お客様の声を聞きながら、サービスレベルの向上や安全の確保など、価値あるサービスの提供に取り組んでいます。

年4回の株主通信「シーズ・メイル」や、アニュアル・レポート、ファクトブックなどを発行するとともに、ホームページでの情報開示を充実させるなど、積極的なIR活動を展開しています。

企業活動の基本に人権尊重をすえ、安全で働きやすいことはもちろん、自己実現のフィールドとしてより魅力のある職場づくりに努めています。

3 積極的に情報を開示し、双方向コミュニケーションを実践していきます。

信頼される企業であるために

コスモ石油グループは、経営の透明性・効率性の向上、迅速な業務執行、リスクマネジメント、およびコンプライアンスの徹底を図り、社会的責任を果たしていくことのできる企業統治（コーポレートガバナンス）を推進しています。

●**経営の監督を行う監査役会**
株主総会で任命される監査役会が監査を実施することで、業務執行と経営の監督とをわけています。

●**企業倫理、環境、安全、人権の委員会を設置**
2004年4月から社会的責任を統括する部署を設置し、グループ一丸となって社会的責任を果たしていきます。企業倫理、環境、安全、人権の4分野について、経営に直結する委員会を設置しています。

●**リスクマネジメント体制**
事業活動に伴うリスクを最小化し、問題の発生を未然に防止するために、2003年度から全事業活動についてリスクの洗い出しから、分析、対策の立案、実行を一貫して行っています。その状況は、監査室が監査し、経営に報告されています。

Top message

皆様から信頼される誠実な経営と価値あるサービスの提供を目指して

コスモ石油株式会社
代表取締役社長　**木村 彌一**

私たちは「環境で選ばれるコスモ石油グループ」になることをめざして、事業活動から発生する環境負荷の低減に力をつくすとともに、事業や国といった枠を超え、地球環境の保全や破壊された自然の修復活動にも取り組んでいます。環境問題は、社会を構成するあらゆる立場の人たちが協力し、その背景にある貧困・人口増加・先進国の大量消費・廃棄型のライフスタイルなどといった問題に取り組まなければ、根本的な改善にはなりません。私たちは、お客様をはじめ、地域社会やNPO、NGO、各国政府の皆様とともに、その実現に向けた取り組みを進めています。

石油事業にとって欠かせない取り組みの一つに安全管理の徹底があります。コスモ石油グループでは、未然防止と早期対応の両面から保安活動の実施、積極的な情報開示を進め、石油製品を安全に、安心してご利用いただけるよう、安全確保の徹底を図っています。

また、私たちは石油製品のさらなる高品質化や、お客様の多様なニーズにお応えするために、カーライフの利便性、安全、安心の向上をテーマとしたSS展開やサービスの提供を進めています。そして、長期的に安定したエネルギー供給を続けるべく総合的なエネルギー事業展開を目指す中で、環境負荷の低い、効率的な次世代エネルギーの研究開発や事業化にも取り組んでいます。

私達は、このような活動を通して、お客様を始め当社を取り巻く皆様に価値を提供し、そしてエネルギー会社としての社会的責任を果たしていきたいと思います。

当社が社会とともに持続的に発展していくには、企業情報を正確に、適切に、よりスピーディーに開示し、それに対する皆様の声を聞き、経営に反映していくことが非常に重要と考えています。皆様の忌憚のないご意見やご指摘を、お聞かせ願えれば幸いです。

環境関連の出版物

『テール』

「人の叡智を未来へとつなぐ環境文化誌」をコンセプトに2004年3月に創刊しました。過去・現代を生きる人たちの生き方や考えを「環境」という切り口で、深く掘り下げていきます。

『地球環境ブック ～未来の地球人 子どもたちへ』

当社の環境教育プログラムのほか、小学校の「総合学習」の副読本として、環境保全活動を実践する48人の方々からのメッセージを1冊にまとめました。

『コスモ・ザ・カード「エコ」活動報告書』

コスモ・ザ・カード「エコ」会員のお客様とともに進める地球レベルの環境保全活動、「ずっと地球で暮らそう。」プロジェクトの活動を報告しています。毎年発行しています。

『サステナビリティレポート』

コスモ石油グループの経営理念を実現するためのビジョンや取り組みをまとめた報告書です。2004年度から発行を始めました。2001年度から発行している「環境報告書」の内容も、このレポートに含まれています。本誌「グリーンレポート」は、サステナビリティレポートのダイジェスト版になります。

サステナビリティレポート

コスモ・ザ・カード「エコ」で、「環境にいいこと」始めませんか？

コスモ・ザ・カード「エコ」

コスモ・ザ・カード「エコ」は、「地球のために何かしたい」というお客様の気持ちと、「当社の環境保全活動に多くの人にご参加いただきたい」というコスモ石油の気持ちが一つになって生まれたカードです。入会時および次年度以降の入会月に **500円** の **寄付金** をお預かりし、それにコスモ石油からの寄付金を加えて、**3～4ページ** で紹介しているプロジェクトを支援しています。

○入会および従来のコスモ・ザ・カードからの切替の特典

- ○初年度エコ入会感謝100マイルプレゼント（入会・切替とも100リットルまで10円／リットルのキャッシュバック）
- ○有料道路がスムーズに通過できるETC機能を無料で付加
- ○各種環境セミナーへの優先参加

Waterless Printing Naturally
PRINTED WITH SOY INK

FSC
30% Minimum
SGS-COC-1466
この印刷物に使用した用紙は木材繊維の30%以上が、FSC（Forest Stewardship Council：森林認証協議会）の規定に従い独立した第三者機関により適切に管理されていると認証された森林から生産されたものを使用しています。
FSC Trademark © 1996 Forest Stewardship Council A.C.

コスモ石油株式会社
〒105-8528
東京都港区芝浦一丁目1番1号 東芝ビル
TEL 03-3798-3211 （代表）
http://www.cosmo-oil.co.jp/

発行2004年11月